

附則

一一六

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ旅行ス

昭和二十年勅令第五百四十二號〔「ボツダム」宣言ノ受諾ニ伴ヒ發スル命令ニ關スル件〕施行ニ關スル件

(昭和二十年九月二十三日勅令第五百四十三號)

前項ノ閣令及省令ニ規定スルコトヲ得ル罰ハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮、五千圓以下ノ罰金、科料及拘留トス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ旅行ス

八、港灣荷役及船舶等造修能力ノ確保昂上關係

- 一 昭和二十年十月二十日厚生省運輸省令第一號(昭和二十年勅令第五百四十二號ニ基ク港灣荷役力及船舶等造修能力ノ確保昂上ニ關スル件)
- 一 港灣荷役及船舶等造修能力確保昂揚ニ關スル勞務充足ノ件(昭二〇・一〇・一一、勸動發策七七號厚生省勸勞局勸動部長)
- 一 港灣荷役力及船舶等造修能力確保ニ關スル件依命通牒(昭二〇・一〇・一三、厚生省發勸策二二六號厚生省勸勞局長)
- 一 (參考)一九四五年九月二十八日AG五六〇覺書(非戰間日本船舶ノ利用ニ關スル件聯合國最高司令部)

厚生省
運輸省 令第一號

昭和二十年勅令第五百四拾二號ニ基ク港灣荷役力及船舶等造修能力ノ確保昂上ニ關スル件左ノ通定

昭和二十年十月十二日

厚生大臣 芦 田 均

運輸大臣 田 中 武 雄

第一條 運輸大臣ハ港灣荷役力ノ確保昂上ノ爲港灣運送業者ニ對シ左ニ掲グル事項ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一、一日二十四時間作業及一週七日間作業

二、事業設備ノ新設、擴張、改良、讓渡、讓受、貸借又ハ使用方法ノ改善

第二條 運輸大臣ハ船舶、船體、船舶用機關若ハ艤裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ヲ目的トスル事業ノ能力ノ確保昂上ノ爲其ノ事業ヲ營ム者（以下造船事業者ト稱ス）ニ對シ左ニ掲グル事項ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

一、一日二十四時間作業及一週七日間作業

二、事業設備ノ新設、擴張、改良、讓渡、讓受、貸借又ハ使用方法ノ改善
三、事業用物資ノ讓渡、讓受又ハ貸借

第三條 厚生大臣又ハ地方長官（東京都ニ在リテハ警視總監）ハ港灣運送業者若ハ造船事業者又ハ此等ノ使用スル從業者ニ對シ從業者ノ使用若ハ從業又ハ賃金、給料其ノ他ノ從業條件ニ付必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第四條 政府ハ港灣運送業者又ハ造船事業者ニ對シ第一條又ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ因リ通常生ズベキ損失ヲ補償ス

損失補償ヲ請求セントスル者ハ損失ノ原因タル事實發生ノ日ヨリ六月以内ニ損失補償請求書ヲ運輸大臣ニ提出スベシ

第五條 第一條乃至第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人、使用人其ノ他ノ從業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關シ前條ノ違反行爲ヲ爲シタルトキハ行爲者ヲ罰スルノ外其ノ法人又ハ人ニ對シ同條ノ罰金刑ヲ科ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

勳發第七七號

昭和二十年十月十一日

厚生省勤勞局動員部長

各廳府縣長官

港灣荷役及船舶等造修能力確保昂揚ニ關スル勞務充足ノ件

刻下喫緊ノ要務タル標記ノ件ニ關シ今般聯合軍司令部ノ命令ニ依リ港灣荷役、船舶、船體、船舶用機關若ハ鑄裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修繕ニ關スル作業ハ爾今之ヲ一日二十四時間一週七日間繼續操業致スコトト相成候條左記ニ依リ速急必要勞務充足ノ措置ヲ講ジ之ガ即時且ツ圓滑ナル實施ニ萬遺憾ナキヲ期セラレ度

追テ本件關係勞務充足ノ爲別途法的措置準備中ニ付申添候

記

一、廳府縣ハ港灣及船舶(木造船、舢舨、漁船關係ヲ含ム)、船體、船舶用機關若ハ艙裝品又ハ其ノ部分品若ハ附屬品ノ製造又ハ修理ニ關スル工場ニ付關係海務局又ハ其ノ出先機關ト聯絡ノ上本件實施ニ件ヲ要増加勞務ノ時期別、職種別、員數ヲ至急調査決定スルコト
 此ノ場合現狀ニ於テ到底募集困難ナル熟練工ノ希望ハ未熟練工ニテ代替セシムルハ勿論雇傭條件等ニ付テモ適當指導スルコト

二、廳府縣ハ右勞務需要狀況ヲ別紙様式ニ依リ厚生省宛報告スルコト
 三、前記需要ニ對シ廳府縣ハ直ニ管下勤勞署、勞務協會等ヲ總動員シ復員援護會及輔導會トモ聯絡

ノ上特ニ復員離職者、休業工場工員、戰災者等ヨリ希望適格者ヲ選定シ斡旋充足ニ努ムルコト
 四、右充足ノ爲必要アル場合ハ適當ト認ムル他廳府縣ニ求人聯絡ヲ爲シ應援ヲ求ムルコト、此ノ場

合ハ同時ニ其ノ旨厚生省宛報告スルコト
 五、差當り宿舍又ハ溜リ等必要ナル場合ハ廳府縣勤勞訓練所等ヲ一時利用スル等臨機ノ措置ヲ講ズルコト

別紙様式

港灣及船舶造修關係工場勞務需要調 廳 府 縣

事業場名	職種別	現在數	要增加數		同上斡旋見込及方法	備考
			差當り	將來		
何々港	沖仲仕	計	何々	計	計	計
何々工場	計	計	計	計	計	計
何々工場	計	計	計	計	計	計

備考 (一) 斡旋見込及方法欄ニハ差當り所要數ト將來ノ所要數ニ分チ縣内ニテ斡旋濟又ハ斡旋可能何々縣ニ何人送出方聯絡濟又ハ勸報隊ニテ充足可能等ノ如ク記スコト
 (二) 備考欄ニハ要増加數ノ内容ニ付其ノ需要ノ時期ヲ記ス外要スレバ宿舍給與等必要ト認メラルル事項ヲ記入スルコト

厚生省發勤第二一六號

昭和二十年十月十三日

一三四

警視總監
地方長官

殿

厚生省勤勞局長

港灣荷役力及船舶等造修能力確保ニ關スル件依命通牒

標記ノ件ニ關シ昭和二十年勅令第五百四十二號(ボツダム宣言受諾ニ伴ヒ發スル命令ニ關スル件)ニ基キ別添ノ通り十月十日 運輸省令第一號公布施行相成候處右ハ聯合軍指令部ヨリ指令ノ次第モアリ我方國船舶ノ最大限利用ヲ確保スル爲港灣荷役力竝ニ船舶ノ建造修繕等ニ付全面的能率發揮ノ措置ヲ執リタルモノニ有之候條船舶輸送力維持增強ノ重要且急務タルニ鑑ミ之ガ實施ニ當リテハ左記各號ニ依ルト共ニ特ニ海務局等關係機關トノ聯絡ヲ密ニシ以テ本施策ノ急速且萬全ナル遂行ヲ期セラレ度此段及通牒候也

記

一、一日二十四時間作業ノ實施ニ當リテハ個々ノ從業者ノ就業ハ三交替制ヲ安當トシ時間中適宜休息時間ヲ設ケ從業者ヲシテ過勞ニ陥ラシメザルガ如ク配意セシムルコト

尙右三交替制ノ實施ニ付テハ勞務ノ充足狀況ヲ充分勘案ノ上之ヲ爲スモノトシ濫リニ之ヲ爲スコトニ依リ事業遂行ニ支障ヲ來サザル様特ニ留意セシムルコト

二、就業時ノ轉換ハ概ネ一週間毎ニ行フヲ可トスルモ交替ニ依リ一時的ニモ作業ノ斷絶ヲ來サザル様充分留意セシムルコト

尙出來得レバ從業者ニ一月三日乃至四日ノ休日ヲ與ヘシムルコト

三、從業者ノ缺勤ハ眞ニ已ムヲ得ザルモノノ外之ガ絶無ヲ期シ之ガ爲戰時中執リタル諸措置ヲ參酌シ凡ユル措置ヲ講ズルコト

四、從業者ノ宿舍ノ設備其ノ他受入施設ノ整備ニ付事業主ニ對シ特段ノ指導竝ニ便宜供與ヲ爲スト共ニ食糧加配其ノ他作業用物資斡旋ニ付各方面ト連携ノ迅速適切ナル措置ヲ講ズルコト

五、從業者ノ通勤ヲ便ナラシムル爲交通機關ノ利用ニ意ヲ用ヒ特ニ深夜作業ノ交替時ノ交通機關確保ニ努メ場合ニ依リテハ電車、バス等ノ臨時運轉ノ措置ヲ講ズルコト

六、第一號乃至第四號ノ事項特ニ第三號ノ事項ニ付要スレバ省令第三條ノ規定ニ基キ必要ナル命令ヲ爲スコト

七、貸金給與ニ關シテハ左ニ依ルコト

一三六

(一) 従前ノ公定貸金、協定貸金又ハ貸金規則ニ依ルヲ原則トスルモ、地方ノ實情ニ應ジ手當ノ増額新設等ノ必要アル場合ハ法令又ハ協定ニ基ク許可又ハ認可ヲ爲スコト
右ノ場合ノ許可又認可ノ内容ヲ遲滞ナク當局ニ報告スルコト

(二) 關係者ト常ニ密接ナル連絡ヲ保チ必要ナル場合直チニ前號ニ依ル措置ヲ講ズルコトトシ第
三條ニ基ク命令ハ原則トシテ之ヲ爲ザザルコト
本件實施ノ狀況ニ付隨時(概ネ月一回)當局ニ報告スルコト

(参考)

聯合國最高司令部

APO 五〇〇一九四五年九月二八日

AG 五六〇(一九四五・九・二八)

覺書宛 日本帝國政府

仲介機關 東京中央連絡事務局

主旨 非戦闘日本船舶ノ利用

一、日本政府ハ使用可能ナルアラユル非戦闘船舶ノ最大限利用ヲ確保スル爲ニ左ノモノ―但シソレ

ニ限ラナイヲ含ム―必要ナルアラユル手段ヲトルベシ

(1) スベテノ船工場及ビ船舶ノ修繕、非戦闘船舶ノ建造、舢艀船、漁船其ノ他ノ船舶ノ建造又
ハ修繕ニ從事セル其ノ他ノ事業場ハ一週七日、一日二四時間就業ナスコトヲ命令スベシ

(2) スベテノ荷物船ノ積荷、積卸ハ一週七日、一日二四時間繼續スベキコトヲ命令スベシ

(3) 日本船舶ノ最大限利用ヲ達成スル目的ノ爲ニ適正ナル勞働ヲ確保シ且ツ缺勤ヲ防止スルニ
必要ナル措置ヲトルベシ

二、本命令ノ受諾ハ最高司令部宛之ヲ爲スベシ

副官・中佐

ハロルド・フエア